

コード No. 28063

**Anti-Human
GBF1 (1844) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : 近年の研究により、アミノ酸やグルコースなどの栄養成分が、生体構成材料やエネルギー源であるのみならず、タンパク質リン酸化反応を介する細胞機能の制御においてシグナル分子として作用していることが明らかにされています。栄養成分により活性調整を受けるプロテインキナーゼとしては、アミノ酸刺激およびグルコース枯渇に反応してそれぞれ活性化される、mTOR (mammalian target of rapamycin) と AMPK (AMP-activated protein kinase) が知られています。これらのうち AMPK は、真核生物における主要なエネルギーセンサーであり ATP の合成促進と消費抑制に貢献するとともに、mTOR 経路を阻害することが報告されています。一方、GBF1 (Golgi-specific brefeldin A resistance factor 1) は新規の AMPK の基質であり、GBF1 の Thr1337 のリン酸化はストレス環境下で誘導されるゴルジ装置の分解に重要な役割を果たしていることが報告されています。

免疫抗原 : Human GBF1 の C 端部分合成ペプチド (LATPRPTDPIPTSEVN)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタンブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

使用方法 : 免疫沈降法 1~5 µg/test にて使用可能

参考文献 : 1. Miyamoto T, Oshiro N, Yoshino K, Nakashima A, Eguchi S, Takahashi M, Ono Y, Kikkawa U, Yonezawa K. AMP-activated Protein Kinase Phosphorylates Golgi-specific Brefeldin A Resistance Factor 1 at Thr1337 to Induce Disassembly of Golgi Apparatus. J Biol Chem. 2008 Feb 15;283(7):4430-8.